

## (2) あいち福祉保健医療ビジョン2026 進捗状況

2023年度

2024年度

目標を達成したもの(A)	5	4
計画策定時と比べて改善したものの(B)	14	15
計画策定時と比べて横ばいのものの(C)	0	1
計画策定時と比べて下回っているものの(D)	3	2
未調査又は指標項目を変更したため評価できないものの(E)	3	3

## 評価指標一覧

体系	番号	項目	2020年度実績 (2021年3月作成時点)		目標			2023年度実績			2024年度(直近実績)					
			年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	進捗	年度	数値等	取組内容	進捗	進捗に関する見解	進捗を踏まえた今後の取組	
<b>重要評価指標:各体系における取組の進捗状況を総合的に評価する指標</b>																
共に支え合う地域づくり	1	重層的支援体制構築市町村数	—	—	2026	30市町村	2023	14市町	B	2024	24市町	未実施市町村における取組を促進するため、有識者による講演や事業を実施する市町の取組状況を紹介する市町村向けの研修会を実施。  (開催実績) 開催 2024年11月27日 対象 市町村職員及び社協職員 参加者 22市町及び25市町村社協	B	2024年度は、新たに10市町が追加され計24市町となつた。実施市町村数は着実に増加している。	未実施市町村における取組を促進するための市町村向けの研修会を実施。	
子ども・子育て支援	2	保育所待機児童数	2020	155人	2029	解消	2023	52人	B	2024	57人	保育所等の整備費補助を行うことで整備を推進し、受け皿の拡大を促進。  (2024年度 整備数) 保育所等 26か所、定員969名増	B	保育所等の整備費補助を行うことで整備を推進し、受け皿の拡大を促進した。	引き続き、施設整備による保育の受け皿の拡充を進め、待機児童解消を図る。	
健康寿命の延伸	3	健康寿命	2016	男性 73.06年 女性 76.32年	2033	男性74.88年以上 女性77.20年以上	2019	男性:72.85 女性:76.09	D	2022	男性:72.91 女性:76.07	生涯を通じて健康でいきいきと過ごすことができるよう、関係機関等と連携し、県民の健康づくりを推進。  (主な取組) ・健康情報ポータルサイト「あいち健康ナビ」の管理・運営 ・あいち健康マレイージ事業の推進及び連携アプリ「あいち健康プラス」の配信 ・生活習慣病対策 ・たばこ対策、受動喫煙防止対策 ・健康経営推進企業支援事業	D	男女ともに健康寿命の数値がやや低下しているが、統計学上の有意差を示す程の変動ではない。  健康寿命の延伸に向けては、長期的な視点で取り組む必要があるため、市町村等と連携して社会全体で健康寿命の延伸に向けた環境づくりを推進するとともに、健康づくりに取り組む県民の増加を目指す。	健康日本21あいち新計画の最終評価において、働く世代において生活習慣の改善等が不十分な項目がみられたことから、「健康経営推進企業支援事業」、「あいち健康マレイージ事業」を推進し、健康づくりに取り組む県民の増加を目指す。  (主な取組) ・健康情報ポータルサイト「あいち健康ナビ」の管理・運営 ・あいち健康マレイージ事業の推進及び連携アプリ「あいち健康プラス」の配信 ・生活習慣病対策 ・たばこ対策、受動喫煙防止対策 ・健康経営推進企業支援事業	
医療・介護提供体制の確保	4	各市町村における地域包括ケア評価指標全項目の実施率	2019	79%	2025	100%	2023	89%	B	2024	89%	評価指標を活用し、市町村の取組状況を評価  (具体的な内容) 28の評価項目について評価を実施	B	2024年度回答は、89%の実施率となり、計画策定時と比べ実施率は上昇している。	目標の達成に向け、引き続き、評価結果を活用した市町村職員への研修等を実施。	
障害者支援	5	地域生活支援拠点等の運用状況 検証等実施市町村数	—	—	2026	全市町村 (複数市町村での取組を含む)	2023	2023年度事業に対する検証・検討の実施: 54市町村／54市町村 (2024年度中に実施予定を含む) 地域生活支援拠点整備状況: 54市町村／54市町村	A	2024年度事業に対する検証・検討の実施: 54市町村／54市町村 (2025年度中に実施予定を含む) 地域生活支援拠点等の運用状況の検証・検討のための手引きなどを参考に、市町村において、必要な機能の充実に向けて、地域アドバイザーと連携し働きかける。	(全市町村検証・検討の実施に向けた取組)  (全市町村検証・検討の実施に向けた取組) 障害者自立支援協議会地域生活移行推進部会が作成した「地域生活支援拠点等の運用状況の検証・検討のための手引き」などを参考に、市町村において、必要な機能の充実に向けて、検証・検討が円滑に行われるよう、地域アドバイザーと連携し働きかける。	A	2024年度事業に対する検証・検討の実施: 54市町村／54市町村 実施状況は2025年度に実施予定を含め54市町村となっている。	引き続き、障害のある方が地域で安心して暮らしきけるため、障害者自立支援協議会地域生活移行推進部会が作成した「地域生活支援拠点等の運用状況の検証・検討のための手引き」などを参考に、市町村において必要な機能の充実に向けて、検証・検討が円滑に行われるよう、地域アドバイザーと連携し働きかける。		

## (2)あいち福祉保健医療ビジョン2026 進捗状況

2023年度

2024年度

目標を達成したもの(A)	5	4
計画策定期と比べて改善したものの(B)	14	15
計画策定期と比べて横ばいのものの(C)	0	1
計画策定期と比べて下回っているものの(D)	3	2
未調査又は指標項目を変更したため評価できないもの(E)	3	3

## 評価指標一覧

体系	番号	項目	2020年度実績 (2021年3月作成時点)		目標			2023年度実績			2024年度(直近実績)					
			年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	進捗	年度	数値等	取組内容	進捗	進捗に関する見解	進捗を踏まえた今後の取組	

進捗管理指標:各体系における主な取組の実施状況等を進捗管理する指標

共に支え合う地域づくり	1	生活困窮者自立支援法に基づく支援会議設置市町村数	—	—	2026	全市町村	—	—	—	2024	24市	国の法改正説明会の開催を周知とともに、従事者養成研修等において、設置の呼びかけを実施。	E	2024年4月時点で24市で設置されているが、法改正により2025年度から設置が努力義務化されたため、設置促進の働きかけ等を行う必要がある。(昨年度指標項目を変更)	2025年度から設置促進に向けた取組を実施予定。
	2	成年後見制度利用促進のための中核機関の設置市町村数	2019	11市町村	2024	全市町村	2023	43市町村 (2024年2月1日時点)	B	2024	45市町村 (2025年3月10日時点)	市町村の中核機関設置等を支援するため、愛知県社会福祉協議会に委託し、市町村に対する個別支援を実施。  (主な取組) 中核機関の設置に向けて、体制整備支援を目的としたアドバイザー派遣を実施	B	2024年度は、設置市町村数が45市町村となった。目標とは聞きがあるが、毎年着実に増加している。	・目標の達成に向け、未設置市町村等にアドバイザーを派遣し、中核機関の設置や機器拡充に向けた市町村への個別支援等を実施。 ・毎年、着実に増加していることから、目標の達成に向け、引き続き、制度周知や権利擁護に係る意識向上を図るために、研修を開催していく。
	3	地域活動の実践につなげる学びの機会の提供 (あいちシルバーカレッジ専門コース受講者数)	—	—	2026	毎年度30名	2023	受講者数30名	A	2024	受講者数30名	あいちシルバーカレッジ専門コースの開催  (開催実績) 開催:2024年11月～12月の6日間 対象者:あいちシルバーカレッジ卒業生 参加者数:30名 講師:愛知県立大学教授 等	A	2024年度の受講者数は30名であり、目標を達成した。	引き続き参加者の確保を目指す。
	4	愛知県ファミリー・フレンドリー企業の新規登録企業数	2019	187社	2025	毎年度130社	2023	99件	D	2024	82件	従業員が仕事と育児・介護等を両立できるよう積極的に取り組む「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」の普及拡大  (主な取組) 専用ウェブサイトの運用管理・啓発リーフレットの作成・配布	D	啓発リーフレットの配布や、専用ウェブサイト等により企業への働きかけを行ったが、周知が行き届かなかったため、目標数値を下回った。引き続き周知を行う必要がある。	引き続き、啓発リーフレットの配布、専用ウェブサイトでの登録企業の取組紹介、メールマガジンの配信等により、機会を捉えて積極的に企業へ制度の周知を行い、登録企業数増加を図る。
	5	あいち結婚サポートセンター登録者の成婚組数	—	—	2025～2029	500組/累計	—	—	—	—	—	結婚を希望する方に、1対1の出会いの機会の提供と、成婚までの伴走型サポートを行うオンライン型の「あいち結婚サポートセンター」を運営し、AIを活用してマッチングシステムを導入するとともに、マッチングから交際、成婚に至るまで、オンライン相談による伴走型の支援を実施。	E	2024年11月事業開始のため、今後調査予定 (昨年度指標項目を変更)	-

## (2) あいち福祉保健医療ビジョン2026 進捗状況

2023年度 2024年度

目標を達成したもの(A)	5	4
計画策定期と比べて改善したもの(B)	14	15
計画策定期と比べて横ばいのもの(C)	0	1
計画策定期と比べて下回っているもの(D)	3	2
未調査又は指標項目を変更したため評価できないもの(E)	3	3

### 評価指標一覧

体系	番号	項目	2020年度実績 (2021年3月作成時点)		目標			2023年度実績			2024年度(直近実績)				
			年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	進捗	年度	数値等	取組内容	進捗	進捗に関する見解	進捗を踏まえた今後の取組
子ども・子育て支援	6	保育士等の確保数	2019	26,887人	2029	35,000人 (常勤、非常勤含む)	2023	29,965人	B	2024	30,571人	保育士の養成、処遇や労働環境の改善による離職防止、潜在保育士の再就職支援の取組など保育士確保施策を実施。	B	2024年度は、保育士確保数が30,571人となり、毎年着実に増加している。	引き続き、保育士の養成、処遇や労働環境の改善による離職防止、潜在保育士の再就職支援の取組など保育士確保施策を推進していく。
	7	生活困窮世帯・ひとり親家庭の子どもの学習・生活支援事業を実施する市町村数	2020	41市町	2029	全市町村	2023	44市町	B	2024	45市町	・未実施の自治体に対し、事業実施促進の通知 ・生活困窮者自立支援法に基づく他の事業より国庫補助率が低率となっているため、国庫補助率の引上げ等、実施自治体への財政支援を強化することに要望	B	未実施自治体に対する働きかけ等により、少しずつではあるが、実施市町村は増加している。	教育委員会が所管している事業(地域未来塾、放課後こども教室)でカバーしている市もあるため、教育委員会とともに連携し、全市町村で生活困窮世帯・ひとり親世帯の子どもを含めた学習支援事業が展開されるよう、引き続き働きかけていく。
	8	こども家庭センターを設置している市町村数	-	-	2029	全市町村 (名古屋市を除く)	-	-	-	2024	39市町村	中央児童・障害者相談センターに市町村支援担当福祉司を配置し、県内各市町村に対し設置促進に係る活動を行った。	E	2024年4月に新たに制度化されて以降順調に開設されているが、引き続き、設置促進に係る活動を行う必要がある。 (昨年度指標項目を変更)	引き続き、市町村がこども家庭センターを適切に運営できるよう支援していく。
健康寿命の延伸	9	20歳以上の者の喫煙率	2016	男性26.1% 女性6.4%	2033	男性19.4%以下 女性3.5%以下	2022	男性:24.2% 女性:5.6%	B	2022	男性:24.2% 女性:5.6%	たばこが健康に与える影響について、正しい知識と情報の提供等の実施。  (取組の内容) ・世界禁煙デー・禁煙週間、鉄道会社による構内放送の実施、ラジオ等メディア媒体を活用したPR ・啓発物品(紙巻煙草等)の配布 ・金山総合駅連絡通路構内への垂幕掲出	B	喫煙率は男女ともに減少傾向ではあるが、引き続きたばこに関する正しい知識と情報の提供や受動喫煙防止対策等に取組む必要がある。 (主な取組) 世界禁煙デー・禁煙週間 啓発物品(リーフレット等)の配布 ・鉄道会社による構内放送の実施 ・ラジオ等メディア媒体を活用したPR	引き続き、たばこが健康に与える影響について、正しい知識と情報の提供等を実施。
	10	特定健康診査・特定保健指導実施率	2018	55.6%、25.0%	2029	70%、45%以上	2022	61.6%、31.6%	B	2023	63.3%、33.0%	医療保険者や企業等と連携して、受診率向上のためのデータ分析や啓発等を実施。  (啓発の内容) ・名古屋グランバスとコラボした啓発物品の作成・配布 ・東海ラジオを活用したPR ・県有施設や商業施設でのポスター掲示 ・府内放送の実施 ・広報あいち掲載	B	各実施率は、目標には及ばない状況であるが、毎年増加している。医療保険者や企業などとの連携を強化して、受診率向上のための普及啓発キャンペーンを効果的に進める必要がある。 (啓発の内容) ・名古屋グランバスとコラボした啓発物品の作成・配布 ・ジオ等メディア媒体を活用したPR ・県有施設や商業施設でのポスター掲示 ・府内放送の実施 ・広報あいち掲載	医療保険者や企業等との連携を強化し、受診率向上のためのデータ分析や啓発キャンペーン等を実施。
	11	高齢者の保健事業と介護予防の一體的実施市町村数	-	-	2024	全市町村	2023	41市町村	B	2024	全市町村	市町村の企画立案を担う医療専門職向け研修会の開催。 また、県全体の医療費データ分析を行い、市町村の健康課題の抽出を支援した。  (研修会開催実績) <第1回> 開催: 2024年9月10日 参加者数: 65名 内容: 有識者の講義、グループワーク 講師: 女子栄養大学 教授 津下一代氏 内容: 講演「一休の実施を効果的・効率的に実施するために一休実績報告書、KDBデータ分析から見た改善策の検討一」 <第2回> 開催: 2024年12月5日 参加者数: 65名 内容: 有識者の講義、県内の好事例の横展開(取組発表)、グループワーク 講師: 名鉄病院 院長 茂谷雅文氏 内容: 講演「高齢者の特性の理解とフレイル予防」  ・市町村の希望に基づき、リハビリテーション専門職アドバイザーを派遣し、一休の実施における専門職との連携体制の整備など効果的な実施方法について技術的指導・助言を行った。 <派生市町村>碧南市・武豊町	A	2024年度は54市町村で実施。引き続き市町村が質の向上を目指すように支援をしていく。	・市町村の企画立案を担う医療専門職向け研修会を開催するとともに、県全体の医療費データ分析を行い、市町村の健康課題の抽出を支援する。 また、医療事例の横展開を行うことなどにより、市町村における取組の更なる質の向上に向け支援する。 ・県理学療法士会等の機能団体と連携し、リハビリテーション専門職アドバイザーとして県が派遣し、市町村の一休の実施に係る体制整備に向けた技術的指導・助言を行つ。

## (2) あいち福祉保健医療ビジョン2026 進捗状況

2023年度 2024年度

目標を達成したもの(A)	5	4
計画策定時と比べて改善したものの(B)	14	15
計画策定時と比べて横ばいのものの(C)	0	1
計画策定時と比べて下回っているものの(D)	3	2
未調査又は指標項目を変更したため評価できないものの(E)	3	3

評価指標一覧

体系	番号	項目	2020年度実績 (2021年3月作成時点)		目標			2023年度実績			2024年度(直近値実績)				
			年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	進捗	年度	数値等	取組内容	進捗	進捗に関する見解	進捗を踏まえた今後の取組
医療・介護提供体制の確保	12	介護予防に資する通いの場への参加率	2019	5.0%	2025	8.0%	2022	4.4%	D	2023	5.0%	通いの場の魅力ある取組を募集するコンテスト、通いの場運営者、市町村職員及び一般高齢者等が参加するフォーラムの実施により通いの場の活動を盛り上げ、参加を促進した。 ＜通いの場コンテスト＞ 応募団体9団体(1市町村当たり1団体)の中から上位3団体を選出 最優秀賞：よつよつすくやく(東浦町) 優秀賞：高瀬西「すの樹」サクラン(扶桑町) 優秀賞：カツエ@東尾(安城市) ＜通いの場の場コーナー＞ タレントと有識者によるトークセッションのほか、通いの場コンテスト入賞3団体の紹介と実際の取組内容の発表を行った。 開催日時：2025年2月20日 開催会場：CBCホール(名古屋市中区新栄1-2-8 CBC会館内) 参加人数：209名 参加者：一般の方、通いの場運営者、市町村、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター 動画配信(2025年3月7日～3月31日):視聴回数464回	C	目標数値に対しては、進捗は横ばいであるが、県内の通いの場の箇所数及び参加人数は計画策定時の2019年度より増加している。引き続き、通いの場の優良取組の横展開などにより通いの場の魅力向上や新たな通いの場の創出を促し、参加率向上を図る。	通いの場に関するコンテスト及びフォーラムを実施し、通いの場への参加を促進する。
	13	医師少数区域の解消	2020	2区域	2026	0区域	2023	1区域	B	2024	1区域	地域枠医師の医師少数区域等への派遣 (派遣の概要) 県内4大学の医学部に地域枠を設置(現在の定員は32名)。2025年度までの地域枠入学者の合計は379名(退学者等を除く)。	B	国が算出する医師偏在指数において、全国の2次医療圏で下位3分の1が医師少数区域とされる。国が新たに医師偏在指標を公表し、医師少数区域の設定が2区域から1区域となつた。	各大医学部の地域枠定員の維持を図るとともに、今後、地域枠医師の派遣数が増加していくことから、適正な派遣調整を進めていく。地域枠医師の医師少数区域等への派遣は、2020年度から始まっており、2025年度時点では45名が派遣されている。
	14	在宅療養支援診療所・病院数	2020	906施設	2026	増加(1,007)	2023	926施設 (2024年3月1日時点)	B	2024	958施設 (2025年3月1日時点)	在宅療養を行なう医療機関を増加させるための研修の実施 (開催実績) ①：1人小委対策研修会(第1回) 開催：2024年10月27日 参加者数：35名 講師：新見公立大学 健康科学部 看護学科 教授 井上真一郎  ②：2世人・寝たきり対策研修会(第2回) 開催：2024年12月8日 参加者数：41名 講師：新見公立大学 健康科学部 看護学科 教授 井上真一郎  ③：拡充・機能支援に関する研修会 開催：2025年1月26日 参加者数：89名 講師：新見公立法人 愛知県栄養士会 副会長 同会栄養ケア・ステーションセンター長 奥村まさ子 社団法人愛知県看護師会 会長 中塚聖一 一般社団法人愛知県歯科医師会 理事 富田健嗣	B	在宅療養支援診療所・病院数は2024年度で32施設増加した。	目標達成に向けて、引き続き研修会を開催する。
	15	介護職員の確保数	2019	103,563人	2026	128,461人	2022	104,845人	B	2023	105,853人	地域医療介護総合確保基金等を活用し、介護人材の確保・定着に係る多様な取組を実施 (主な取組) ・介護の仕事の魅力発信などによる多様な人材の「参入促進」への取組 ・職員のキャリアアップに対する支援などによる人材の「資質の向上」への取組 ・職員の負担軽減などによる「労働環境・待遇の改善」への取組	B	介護人材の「参入促進」、「資質の向上」、「労働環境・待遇の改善」を3本の柱とした、各種取組の実施により、策定時より介護職員数が増加している。	介護職員数の更なる増加に向け、介護人材の「参入促進」、「資質の向上」、「労働環境・待遇の改善」を3本の柱とした各種取組を引き継ぎ実施。
	16	認知症地域支援推進員の新任者・現任者研修受講率	-	-	2025	100%	2023	新任者研修受講率：90.6% 現任者研修受講率：42.2%	B	2024	新任者研修受講率：85.6% 現任者研修受講率：42.9%	認知症介護研究・研修東京センターが主催する当該研修受講に係る受講料を負担	B	本目標は、国の認知症施策推進大綱にもKPI(重要業績評価指標)として設定されているもので、本県の状況は、いずれも全国平均を上回っている。推進員を配置する市町村において、新任者研修が優先される傾向にあり、特に現任者研修において受講率が低くなっていると考えられる。	研修受講料の負担と合わせ、市町村や認知症地域支援推進員に対し、認知症地域支援推進員業務やその質の向上の重要性について周知するとともに、県独自で開催している認知症地域支援推進員向け研修やラーニングシステムにより認知症地域支援推進員の質の向上を図っていく。

## (2)あいち福祉保健医療ビジョン2026 進捗状況

2023年度

2024年度

目標を達成したもの(A)	5	4
計画策定期と比べて改善したものの(B)	14	15
計画策定期と比べて横ばいのものの(C)	0	1
計画策定期と比べて下回っているものの(D)	3	2
未調査又は指標項目を変更したため評価できないもの(E)	3	3

評価指標一覧

体系	番号	項目	2020年度実績 (2021年3月作成時点)		目標			2023年度実績			2024年度(直近実績)				
			年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	年度	数値等	取組内容	進捗	進捗に関する見解	進捗を踏まえた今後の取組	
障害者支援	17	グループホーム(共同生活援助) サービス見込量	2019	6,077人 (人／月)	2026	12,369人 (人／月)	2023	10,349 (人／月)	A	2024	11,104 (人／月)	量的確保については、社会福祉施設等施設整備費補助金により地域ごとの充足率を勘案しながら計画的に進めるとともに、質的確保についてはグループホーム整備・運営支援制度による支援、サービス管理責任者研修等の充実、定期的な監査等を実施。	B	2024年度実績は前年度比107.3%の11,104人／月となるなど、着実に増加している。	今後も引き続き社会福祉施設等施設整備費補助金による後押しを進めるとともに、グループホーム整備・運営支援制度における相談会等の各種取組の実施や、事業者に対する監査を通じて質の確保を目指す。
	18	地域生活移行者数	2017～ 2020	61人(2019年度末時点)	2023～ 2026	147人	2020～ 2023	116人	B	2023～ 2024	78人	グループホーム整備・運営支援制度による住まいの場の確保や、福祉施設入所者の地域生活移行を図るための地域生活体験モデル事業等を実施  (概要) 地域で自立した生活を継続していくための施設入所者等を対象とした宿泊体験事業や障害者支援施設や特別支援学校等に出向いて事業説明を行う出前講座等を行う。	B	2024年度の地域移行者は55人であり、2023年度以降の累計は78人となっている。地域生活移行者数は確実に増加している。	地域での生活に关心がある方が、地域生活を具体的にイメージできるよう、グループホーム等を活用した体験事業や出前講座を実施するとともに、引き続きグループホーム整備・運営支援制度による住まいの場の確保や、グループホームの世話人の確保等に取り組む。
	19	医療的ケア児に対する 支援調整コーディネーター配置人数	2019	県4人、 市町村174人	2026	県15人、 市町村538人	2023	県12人、 市町村326人	A	2024	県18人、 市町村382人	コーディネーター養成研修を実施(4日間)  (開催実績) 開催：2024年9月10日、9月11日、9月25日、9月26日 参加者数：126名 講師：社会福祉法人理事長始め10名	B	コーディネーターの配置について、市町村に対し、会議の場や通知により働きかけを行つとともに、コーディネーター養成研修を実施。 こうしたことから、県内のコーディネーター数は着実に増加している。	引き続きコーディネーターの配置を市町村に対し働きかけるとともに、養成研修を実施することで、コーディネーター数のさらなる増加を図る。
	20	福祉施設利用者の 年間一般就労移行者数	2019	1,367人	2026	2,153人	2023	2,162人	A	2024	2,468人	一般就労への移行等に関する「一般就労相談窓口」を設置するなど、一般就労に向けた福祉施設の取組を支援  (相談窓口の概要) 福祉施設からの一般就労移行に関する相談に随時対応し、一般就労を見据えた生産活動の指導や、職場実習先・就職先等の開拓方法等の助言を行う。	A	2024年度の一般就労移行者数は2,468人で目標値2,153人に対して114.6%となっている。	引き続き、希望する方が一般就労に移行することができるよう、事業所からの一般就労に向けた相談への対応や事業所職員を対象とした研修会及び実践報告会を開催して、事業所の支援力向上に取り組む。